



Y U K I S H I R O M I Z

東京電力(株)東通原子力建設準備事務所 広報誌

ゆきいろみす

Vol 13

春号

2008.3.30

発行／東京電力株式会社 東通原子力建設準備事務所 TEL039-4223 青森県下北郡東通村大字小田野沢字南通2-303 TEL0175-45-7052・FAX0175-48-2019
ホームページアドレス <http://www.tepco.co.jp/nu/hd-np/index-j.html>



雪解けとミズバショウ

平成20年度供給計画における東通原子力発電所の計画について

当社はこのたび「平成20年度供給計画」を経済産業大臣に届出いたしました。その中で電源設備計画につきましては「安定供給」、「エネルギーセキュリティ」の確保を基本に、「経済性」、「運用性」および「環境への適合」などを総合的に勘案し、原子力を中心とした電源のベストミックスを着実に推進してまいります。

東通原子力発電所1号機においては国の「安全審査中」ですが、新潟県中越沖地震の発生に伴い、当該地震から得られる知見の反映などを適切に実施していくとの考え方の下、これまでも検討を実施してきています。こういった状況の中、当初希望していた予定に比べると安全審査の進捗が遅れていますことを考慮し、計画を1年繰延といたしました。

1号機の繰延と合わせて、2号機についても計画を1年繰延といたしました。2号機については今後の需要動向等を踏まえ、検討してまいります。

立地地域の皆さまには、大変ご迷惑、ご心配をお掛けいたしますが、今後とも当社事業活動に対しまして、ご理解・ご協力を願っています。

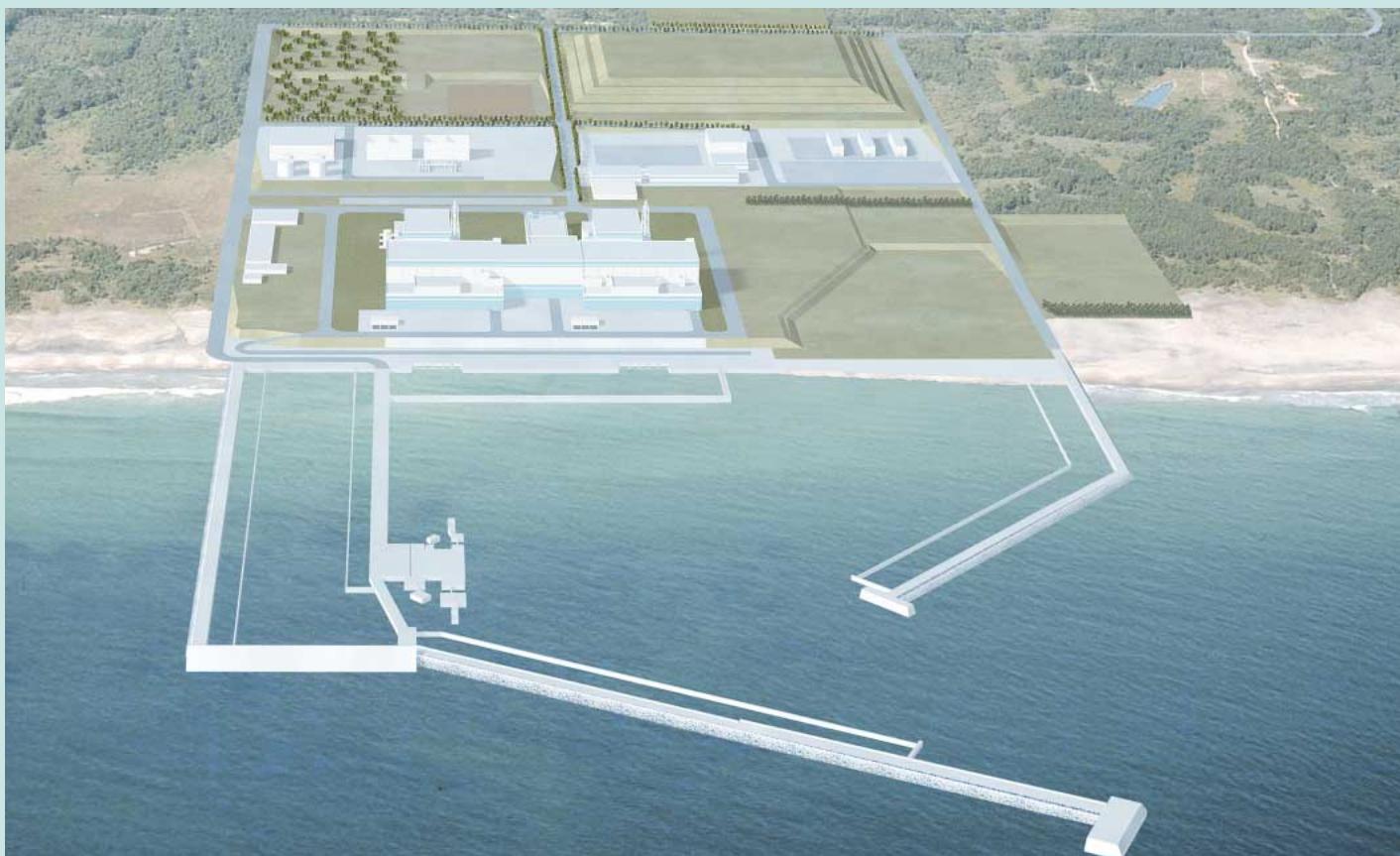
■平成20年度電源設備計画

	出 力	着 工	運転開始
1 号 機	138.5万kW	21年11月	27年12月
2 号 機	138.5万kW	24年度以降	30年度以降

(参考)平成19年度計画

	出 力	着 工	運転開始
1 号 機	138.5万kW	20年11月	26年12月
2 号 機	138.5万kW	23年度以降	29年度以降

■東通原子力発電所 完成予想図



準備工事の近況についてご報告いたします。

進捗率は65%です。

敷地造成工事

- 構内排水路の建設は、敷地造成の進捗に合わせて行っています。
- 仮設ヤード(資機材置き場や作業場など)や構内道路の造成も進めています。



海域から見たケーソンと南防波堤

進捗率は1工区(南・東防波堤)が24%、2工区(北防波堤・物揚場)が1%です。

港湾工事

- 南防波堤は約400メートル延伸いたしました。
- 放水口護岸工事に伴うケーソンの据付は3月19日に終了いたしました。

- コンクリートブロックの製作及び捨石の運搬・ストックを継続していきます。
- 北防波堤の延伸工事を継続していきます。



H20.2月末の全景



排水路構築状況



仮置き場での捨石洗浄状況



北防波堤施工状況

準備工事
Q & A

Q1 放水口護岸工事に伴うケーソンってなんですか？

こうそうぶつ

A1 防波堤になるコンクリート製の箱型の構造物です。

たいは おんはいすい

防波堤として「耐波安定性」を確保する機能と、温排水(発電所の冷却水として使った海水)を所定の位置から海に戻すために放水する「放水口」の両方の機能を兼ね備えた設備です。



据付後のケーソン

Q2 港湾工事はどのくらいかかるの？

A2 工期は6年の予定です。原子炉建屋本体工事が始まるとき、大物機器の搬入のため海上輸送が始まります。それまでに物揚場(発電所内の港)が完成するよう港湾工事の工程を組んでいます。

横浜断層に関する追加地質調査の概要について

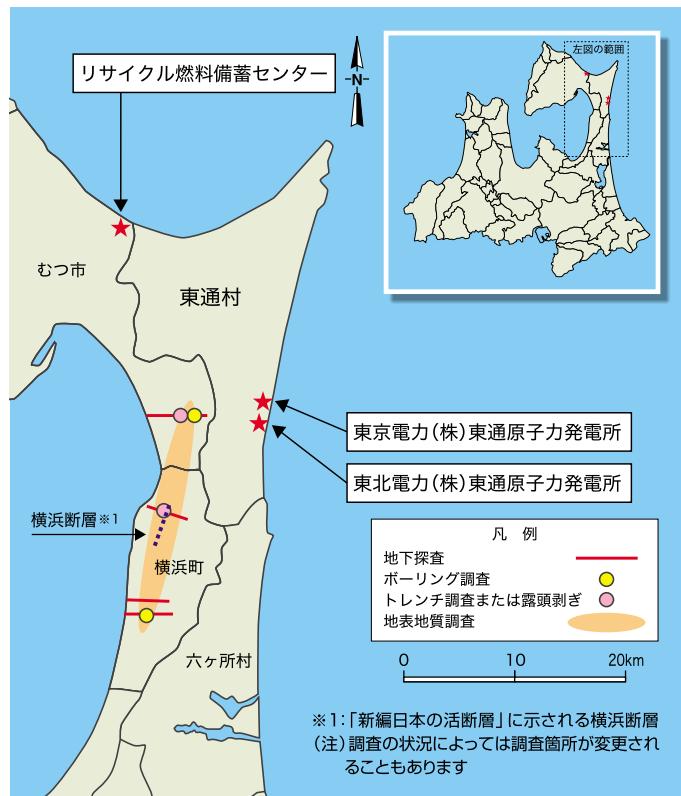
1 調査目的

東京電力株式会社、東北電力株式会社、ならびにリサイクル燃料貯蔵株式会社では、各社の原子力関連施設における安全審査等の中で、調査データの拡充のために地質調査の追加実施など必要な措置を講じてきています。この過程において、活動性がないと評価していた断層の一部である横浜断層について、その活動性を確認するために、より一層の調査データの拡充が必要であると判断したことから、更なる地質調査を行うものであります。

2 調査概要

- (1) 調査範囲／下図に示す範囲について調査予定。
- (2) 調査実施時期(予定)／平成20年3月14日～平成20年6月末

■ 横浜断層に係る調査範囲



3 調査数量・概略工程(予定)

調査項目	数量	3月	4月	5月	6月
地下探査	4測線				
ボーリング調査	2地点 (1地点当たり数本)				
トレンチ調査または露頭剥ぎ ^{※2}	2地点				
地表地質調査	—				

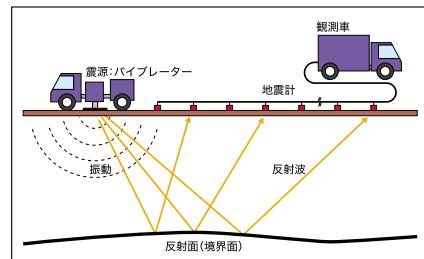
※2:表土などを剥ぎ取って行う露頭調査
(注)調査の状況によっては数量を変更することもあります。

4 調査方法

横浜断層の活動性および同断層の深部構造等を把握するため、地下探査、ボーリング調査、トレンチ調査および地表地質調査等を、左中の地図に示す範囲において実施いたします。

地下探査

起震車を用いて、地下に振動を与え、地層からの反射波をとらえ、解析を行うことで、地下構造を調査します。なお、探査する深さや道路状況に応じて、起震車としてバイブレーターおよびインパクターを使い分けします。



主な使用機材

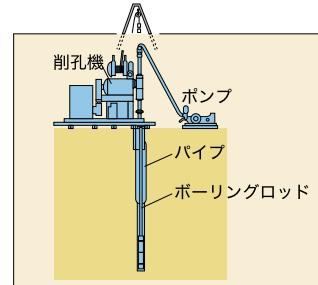
[道路の幅員が狭い場所で使用]	
●全幅:2.4m	●全長:8.2m
●全高:3.3m	●重量:17.7t
●全幅:1.9m	●全長:4.8m
●全高:2.8m	●重量:6.5t

起震車A(バイブルーター)
(探査深度/2km程度)

起震車B(インパクター)
(探査深度/500m程度)

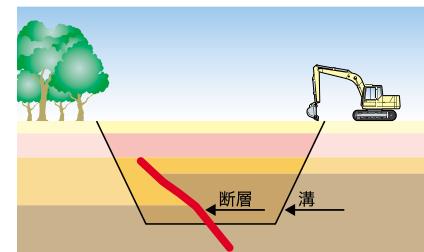
ボーリング探査

地盤を構成する岩石などを棒状のコアとして連続的に採取し、これを観察して地質の状況を調査します。これを複数箇所で実施する事により、地層の分布状況(連続分布など)を把握します。



トレンチ調査

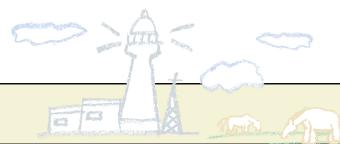
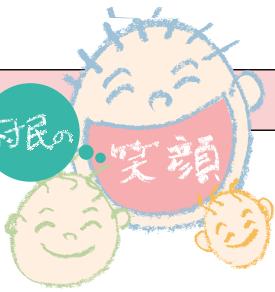
断層を横切るように溝を掘り、溝の壁面に現れた断層部と断層周辺の地質を観察し、断層の過去の活動履歴を調査します。



地表地質調査

地上で地層が直接見られる場所(露頭)などを観察し、地質を調査します。





先祖を供養するため 「念佛」を伝承する石持老婆会

「ナムシャカ～」「チョウライシデ～」先祖の靈を供養しようと、お地蔵様の命日にあたる毎月24日、念佛を唱え伝承しているのが石持老婆会です。

石持地区の念佛は、昨年まで念佛を受け継いできたあばあさんたち5、6人が当番で地区をまわっていましたが、高齢で守れなくなつたため、その家のお嫁さんが地域の方々に相談。その結果、老人クラブ「石持老婆会」がみんなで力を合わせて守っていくことになったのです。

東通村には各地区で念佛が伝えられており、石持地区に伝わる念佛は、あつとめの時に唱える「ナムシャカ念佛」・彼岸に唱える「中日念佛」「恐山念佛」をはじめ、通夜の念佛、男性が亡くなった時の念佛、女性が亡くなった時の念佛など7種類もあり、節回しが違うためすべて覚えなければなりません。

そこで老婆会では、66歳から85歳まで20人の会員が農閑期の冬場は1週間連続して何度も集まり、念佛の練習を行っているのです。

2月24日、老婆会の集会所には17人が参集。年長者の畠中はつよさんを先生に、ノートに記した念佛を見ながら木魚や鉦に合わせて熱心に唱えていきます。

会員たちは「言葉はノートを見



7種類もの念佛を練習します



大福富子副会長(80)

吉田せつ会長(75)

先生の畠中はつよさん(85)



笑顔の石持老婆会

ればわかるけれども、節回しの音階や強弱が難しい」と話し懸命に練習。「間違つたらみんなで笑って覚えていくのです」と和やかに話します。

練習のあとは、みんなで持ち寄ったお弁当を広げ、よもやま話に花を咲かせます。「これまでは、こうして毎日集まる機会がなかつたけれど、念佛のお陰でみんなで集まって楽しむことができます」とにっこり。

吉田せつ会長は「念佛は、この世を去り、あの世に行くときの唄です。お地蔵様やそれぞれの家で亡くなった仏様のことを思い、ずっと供養を続けたい。そして石持に伝わる念佛をしっかりと守って行きたいと思います」と話していました。



念佛を唱え大きな数珠を回して百万遍を行なう石持老婆会



くるみでできた玉をまわし、大きい玉が回ってきたとき頭につけると頭痛が解消されると言われているそうです

